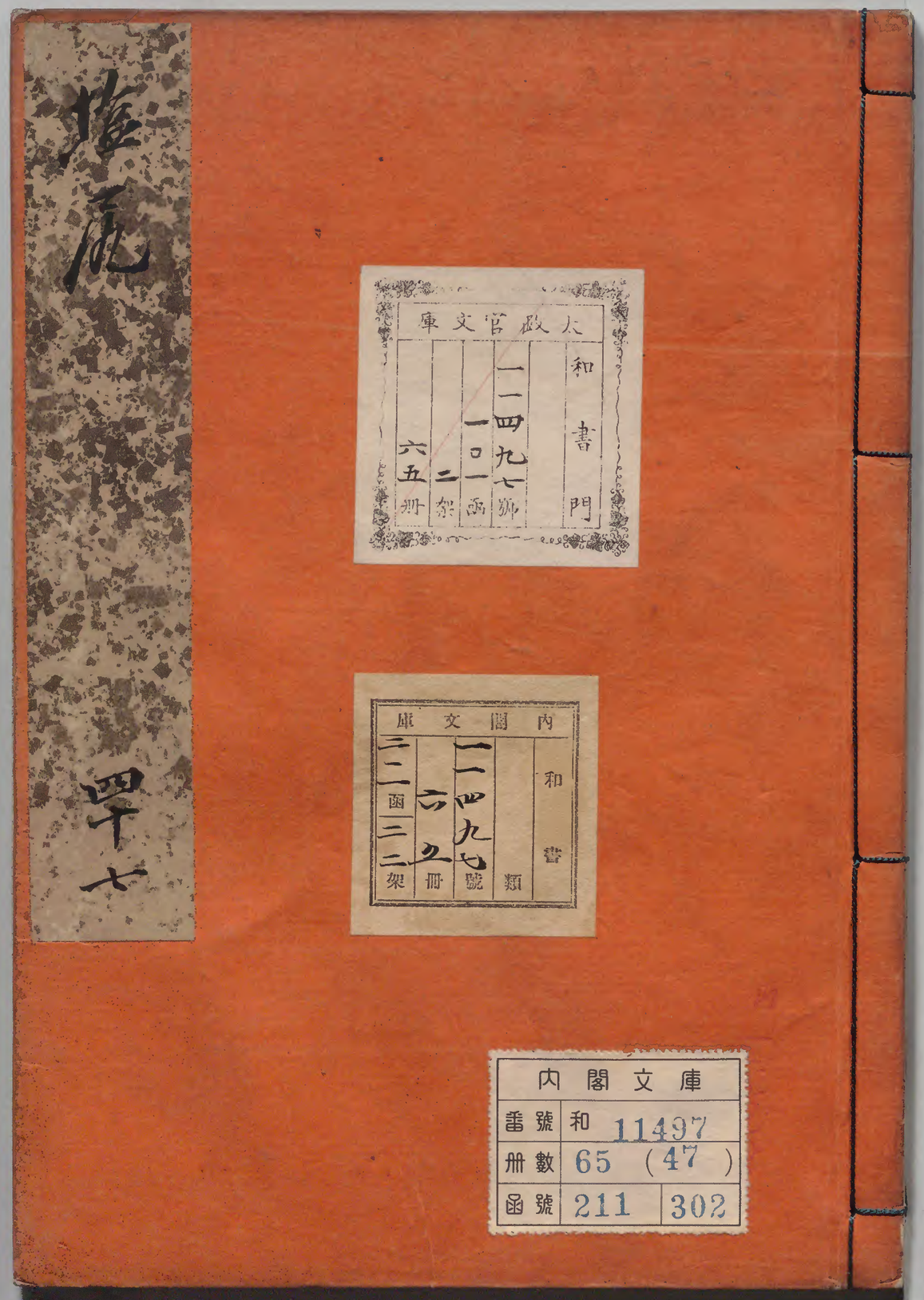

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫

冬至遊前村 癸巳十月

雲意手晴雲線長
風霜柳瘦晒寒塘
希音淡酒一陽裏
獨有郵梅發暗香

異邦にては古今冬至の賀いと盛なりし朝鮮王
と世日をも陳賀せり李東郭我が國八朝旦しめ至
後時 新延沖賀有のうつて士庚八世日何事とう

四十七 内 一二七九〇號

とと初うる者多し将院につて祝事有（各之者の所作の儀万端と答ず）
錢塘は回汐成り熙朝樂事にいふ元四時異風俗ハ
とはりさに記せり元旦の賀礼往来交賀をうる母親
等し少年八進治歌吹等母〳〵のうたを慰む
十八日に至ると放魂とうたひ三度立つて書と收む立人
肆ハ迄り晨商各其業を執て收魂とふとやうれいえ
正にて招枝柳飾に簪し大橋をわたれと家てうれと
百事大吉と祝とうて

招枝と百事と言通し大橋と大吉と言通せり我
国にも代れり（かとを事に呼ず尚以治之）
立春の日ハ優人戲子小妓等紅を紫を彩る部寺ハ僚
屬と等しく出春牛を作り市街競て麻麥菜豆を以
春牛に抛打等しとう
抛回員人乃夜窓を打とうれて似乃邪治気を西に
陽気と迎ひうるあて
又民間士庶の生業を為ある立春の気物とやるとも

毎月乃はさいとて　清明　立夏以下の時令
唐来乃時戯人ハ不拳　俗事多
章の人故るかれもとく古て入るあるとて詩乃作
作るを大かた抽しや中和節朔月花朝　二月　杯花と戯
を向しくせん端午乃粽菖蒲艾葉を用るる事
等し之秋九日樹葉を歓き秋水を仰く茱萸を粉
を呑杯するる也乃ちまるるや
世月八日佛生辰以盆全　銅像浴以糖水　霞以花手と

いるハ我国一般と共に行ふ
二月十五日寺院落涅槃会談孔雀経のこと
其像のるかし　疑内ハ入涅槃乃相像ハ
と称しにかるや
○或人問明朝の皇子今ハ一帝曰宣統廣宣琉球王
入貢　来都して大高皇明薩摩守藤原邸に於て
王子ハ清に朝せしと問ハ中に第朝聖の孫
今時小邦と称し順治王と称すと答ハ

とて其祝を奉ずる事有りとなん

○或人問ていはく右門右門等は称ず東百合佐拓之丞紀田
羽栗の世とかるゝ人名不聞ゝ或其起り伝の時代如何
是等皆百年乃伝聞に任し台記の中に記す兵部丞右衛
門尉とあり右門は少年の名人祇園の器書とかゝるや
左右近衛府内膳を兼ねしとあり内右門尉なるべし
但今此と伝え更異名と呼伝へし也実名の誤
また東の佐右佐東佐拓之丞弟名なく

御堂と偏の時彼立遠のふくをとりて住
と作り者れも傘の柄漏のくくまれたる
とされに弁にかくとうとひ年一度抜出
原の年作ら是時彼柄漏小神の如く時人
有をくるかれ作とて作し者人柄漏を作
異名とて是人の孫作て名の上作る我が家
枚御堂と呼ぶして歌書と衛も為しうる名なり
そのように入すり者成と　作りし名異名し

せ[illegible]類世[illegible]物[illegible]足[illegible]を[illegible]
苟[illegible]あ[illegible]称[illegible]と[illegible]
[illegible]
く[illegible]俗[illegible]
○埒　倭名鈔云馬埒　世声字苑云埒力輟反与劣同世間云良知
戲馬道也ト云云
埒ラチ同鈔云垣堤也封道曰埒以ニ埒相馬ヲ於中
行則不顛躍也云云發隠云短垣圍馬曰埒ト云云物ト

[illegible]
と[illegible]如[illegible]俗世[illegible]
○右[illegible]
時[illegible]
今日堂上家[illegible]
[illegible]
○拳序拉綱羅　訓足ニ鞨機陳　孔璋ハ袁紹ノ為ニ陳琳
撥せし言[illegible]世[illegible]人[illegible]文[illegible]拉鞨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○芝中雲菴を感得せしる三昧の修験宿彩張の
之に渠加賀雅乙か芝薙は佛事神仏にて鏡別の部
論なり惟堂教寺に佛経乃書最紙仏なり
已志に載せし渋柿か受方なる記自在乃雷吉と云
其他異人芝に入る伝授乃方いろいろ報と好説古書
に一伝なる我也つと有乃名何て教行仏と感て
獲うせし小鳥説乃統れ有り
○異邦は茶大祭大前り本事方に唐書と引て表姑

清風嘯邈して不語緊若蔗立者数解と為すべきなり

蓋しこれを得ざるの新方

秋山翠と青々半と小逸し高雅なる詩七年の病三年の

艾久しく度新人のごとくなるを以て抜用の陽茶の要

剤三十年来の苦心永今に伝せしめんとすべし何の病か治せざ

真依新四乃安まるべきを病とせんやかく

以伝とかくの病を療せん時保拙部屠蘇

○高岡鈔八樂書書写性空上人の撰なる醍醐鈔も亦

当律の書に是豊原氏乃秘記と称す

醍醐と豊原の骨肉也れと雖とも色きの故を以て

各別し所とす

○檀林　観仏経六時言品に云

閻浮十八檀林八東照宮乃命に依て吾国師撰

○悅親光寅悅老漢　小春初三日

古山冬雲東風暁　夢抜夢新寤又遠

千里飯雲一堆土　蹄林梅白鳥空啼

彼沙七日乃外と会る時

一

[illegible]

○年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

依と丈馬繫餘年　　鏡堂梁恕獨自憐

古柳老梅思往事　　春宵燈下淚潸然

○旧臘廿日東都小石川の辺多く火災[illegible]

池の端[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ 擯座奏舞りて人々の塵外し自覚世界の氣象を仍
一絶を吟して炉辺に眠る

新月新篁足笑娯　白頭壺避利名途
柴扉寂々疑無客　梅柳有隣春宣孤

○ 自水戸相公久昌寺被仰出法式草稿

一欲学法華者不論受布施不受布施一致勝劣
富士門徒及他宗学徒者尽可討伐錫杖若恣
我意不改衣鉢返及法論之徒速可擯出

寺門

一修正會中興會涅槃會佛生會盂蘭盆會祖師
會開山忌本願忌大衆具威儀会千佛殿
可嚴重修法之事

一毎月十三日十四日夜時大衆搭七條衣鉢盂
之式可如法行之

一正月自元旦至三日除夜安居之始終毎月朔望
大衆具威儀可拜之位持

一冬夏安居之暇可置付宿師碩德学中他家宗義上

一僧房寮舎不可安佛像但掛曼陀羅

一凡為僧者自引道於葬処乃限父母師長及

僧徒如其餘送葬不可赴其処長佛剃而得有

明文然近世以送葬為僧徒之職習以為常

不覚其非至荼毘越之死為僧家之福嗚呼

法滅相孰甚於此向後葬斂當卒大衆於

佛殿行之

不論有縁無縁及斃於道路其葬本山者住

持當資其冥福

墓上石誌前刻法号首題及法名後刻姓名

年月若夫墳墓碑石縦雖為僧法可隨其檀

越之求然禁祭之以酒肉

思簿録法名其下記姓名郷里年月及夏實

不論貴賤可薦冥福

一近世僧乞者於法事中出其牌位於佛殿香

華茶菓備懸供養而佛前ノ供具不及其百分
之一是大訛也夫薄亡之法以諸供物奉獻如
来勤修法事則依其功德亡者昇脫然不供
如来而惟供亡者則豈理也哉向後薄亡法事
當ニ如法行之至ニ亡者牌位ニ則於ニ其平生所
安之処供養而可也

一近世富人死則不論其門地下賤妄費財物ヲ
高大其石誌莊飾其牌位ヲ而無士庶人之別
向後石誌牌位共可堅ク守ル所定之制量
一以ニ香大寺名ヲ為創建楷主號乃本朝中古之
風而名御鉅公之称也然近世僧徒不論士庶
設授院号ヲ是大訛也向後堅禁ス之且夫院号
之下安殿字乃叢林禪侯所ノ傳ノ謬ヲ而毫無
義理而後縱雖有ル官爵者有ル故称中院號ヲ亦
不ル得ル加殿字ヲ
一近世書經文於布衫以為死人服名曰經衫是

大訛亡然書手布衫以纏臭骸遂至焚燒而
為厄烙非法之罪莫斯為甚向後堅禁之
一迩世名曰横被者古之覆肩大覆肩者本是
尼之服而非僧之服也佛在世阿難一人有因
緣聽覆肩今僧徒着之大違佛制又五條
小袈裟絡子之類京絡子者唐朝南方之禅
僧之所着永氏學覽引根本百一羯磨強
為會通雖曰貪勝空身而非佛制而禅僧
妄作則何為用之袈裟上色帯名修多羅者
亦是後人謬制古所訶也又法服之領名
曰僧綱帽亦後人妄作也又名花帽子而長
頭者亦是国俗尼女之所蒙僧徒用之者其
始起於禁裏御修法寮徒所蒙也是御寒
之服而耳今當宗僧徒襲其謬准法衣以
蒙之遂冒祖師像甚至以綿帽代之非法
之甚不足掻齒牙向後着如上諸服不許

入寺門沈於共住僧徒子憤勿着非法之服

念誦本是課佛説経呪而計其数之異也近

世僧徒称佛時揉為聲甚無謂矣夫揉以

為声乃修外法者所作也當宗僧徒宜

為外法者流之態乎向後堅禁之

一近世置子母神像胃頭上以俗衣襞慢之甚

殆似寺僦儛向後堅禁之當如法供養

○自紀昭故亜相公拠特寺江五ヶ條御不審

南楚和尚返答

一淨土宗僧正僧都等ノ官ニ進タル例有之否事

淨土宗僧綱ノ官位前代不及ハ家ハ近世鎮西

流ニ僧正国師アリ

一禅宗淨土宗官位進不進之事

佛国ノ式法宗旨ノ異ヲ謂又戒風德行ニヨリテ

些配等ヲ定ムヘキノ佛制ハ王家ノ官位ヲ受ル

変経律　見ヘシ漢土本朝王家ノ官位受ル

故袈裟衣ノ色ニヨリテ位階ノ品ヲ立ル佛制ハ色ニ
ヨリテ位階ヲ立テス黄黒本綱ノ三色ヲ袈裟衣色
トシ好ム所ニヨリテ着スヘキ旨ニハ五分律ノ衣色
五色ヲ用セムヘトモ五方ノ正色ハ何色ヲ用ヒスヤ皆壞色ニ
スヘキ佛制也佛法漢地ニ渡リテ護法ニ軍法ノメメ
ニ諸宗同ク勅許シカツムリ位階ニ進ムト見エ中ニハ唐
朝ノ淨土宗ノ祖師ノ中ニ廬山ノ慧遠ニ朝 大師
号アリ佛祖統紀樂邦文類優曇寶鑑等ニ有リ 磨三谷 釋曇鸞大師 優曇寶鑑

是ヲ傳聞ニ又善蔭号隆綸ト唐朝道綽禪師佛祖統紀優曇寶鑑ニアリ
唐善導大師往生集ニアリ律師開梨ノ号蓮華經禪師号
瑞應傳ニ異朝淨土宗官位ノ例畧シテ右ノ如シ本朝聖
道家ノ官位傳記等ノ意右来論經論義或ハ鎮
護国家ノ祈禱或ハ御悩ノ加持或ハ請雨功験等ノ
賞ニヨリ位階ニ叙セラルヽト見エタリ後世ニハ先例ニ
ヨリ足ヲ望ニ或ハ草恩ノ勅許モコレ有ル歟淨土
道門ハ先ニ来朝シテ右ノ如ク公家ノ役ヲ勤メリ

仏禅浄土ハ後ニ弘マル故ニ云請トアワカラサレハ勅賞
ノ官位ナキ歟但シ禅宗ニ国師僧都紫衣ノ勅
位等アリ彼ノ又細ハ不存ル　禅浄土ニ国
主ノ地ニ伽藍ヲ立テ或田園ヲ賜ハリ仏法弘通仕レ
故ニ諸ニカ各利ニシイテ国家安全ノ御祈祷イタスコト
定レル或ハ我浄土宗ハ元祖法然偏ニ名聞ヲイトヒ
専ラ出離ヲ志シ叡山ノ交衆ヲノカレ西塔黒谷ニ隠居
シ藏経ヲ披覧アルコト五遍往生ノ要行念仏ナリト
思ヒ定メ兼子四年生年四十三ニシテ宗旨開基ノ
故ニ祖師官職ノ望ナリ綱位ニ進マレサルト見ヘル共
門弟師ノ隠遁ノ志ヲ相傳ル故ニ僧綱ノ位官ナリル
後ニハイタリテハ菩薩号ニ任セシ濃州ニ改ル岡山ノ知通菩薩　或ハ和尚
位上人位ニ任シテ紫衣香衣ヲ著用ス浄土宗官位
ニ進ムヘキサル道理モナリ定式ニモナリル

一律師号之事

永観律師ハ宗祖ニアラス東大寺ニシテ戒ヲウケ
諸宗ヲ学シ白河院長暦二年治承東禅林寺ニ住シ

一面ニ名仏ニ堀河院嵯峨徳ニ年六十七ニシテ律師ニ
任ズ僅ニ一宿ヲ経テ辞セラルヽト雖モ仏海上宗
官位ノ例ニアラズ又法然門ニ隆寛律師アリ是
モ本聖道宗ノ時ノ官位ニテハ
一浄土宗ニ衣之変
元祖本宗ヲ天台ナル故本宗ノ衣相ヲ改ラレス直ニ皆
世衣ヲ用ヒテ聖道衣ニテハ当流ノ始祖西山禅空ノ
嫡子法興浄高唐朝宗祖ノ衣法ニヨリ今ノ衣ニ改メ

ラレ今ヨリ来タ著用仕ハ他他流ノ改衣
ノ衣法書傳ニハ見ヘズ又ハ異国浄土宗
其始ヲシラズ
恐縮 高倉院御宇法然ノ門弟俊寛重源入宋
ノ時法然ノ云タ宗祖雲竇道綽善導懐感少康
五師一鋪ノ圖書尋来ヘシトヽヽ重源宋ニイリ相
尋ヌルニ果シテ五師一幅ノ影像アリ持来シテ法
然ニ送ル法然ノ傳ニ此五師ノ衣相同シク今浄土宗ノ
著ス袈裟衣ニテハ此五師宗禅ニテ此衣ヲ著

セラルヽアラス五師ノ中曇鸞ハ西論宗道綽ハ涅槃
宗善導ハ三論宗ニテハヽ氏浄土宗帰依ノ時本
宗ノ聖道衣ヲ改メ今ノ衣ヲ着セラレハ故ニ性徳浄
土ノ衣相ニテハ袈裟ヲ着用スルヒアラス其影像法然
ノ門弟法空相ヒ傳テ今ニ嵯峨ニ尊院ニアリ是レ
則異国宗祖衣法ノ疑験ナリ其後来朝ノ別幅
慧遠善道等ノ唐絹住ヒアリ皆同シク今ノ衣ヒ
テハ

一聖道門之支

禅宗ニハ教内教外ヲ分テ教内ノ宗ヲ指シテ聖道ト
名ツクル次浄土宗ニハ唐ノ道綽禅師聖道浄土二門
ノ教相ヲ立テ以ノ摂集教内教外ヲイハヽ浄土門ノ
外ノ諸宗ヲサシテ聖道門トナツケハ本師世義ヲ判
メ云リ此土入聖ヲ名テ為聖道ト従穢土浄土ニ故曰浄土矣
○或人問是日寺秋迦堂壁尼仏形方僧ヒ名ヒ
哉ハ何ソ　答光賓阿闍梨者也寺院会昔ヒ安

置ものなるべしと云ハ聖僧羅漢とも云ハ乃然也

尾府ハ信州古へ婦人の白粉ぬりしなるべ

しとのことなるハ一も昔ハ同国人無よりの世

俗江戸粉を以面色をぬりて乳根しる風俗し

故ある〳〵四つとなりさ者河豚

○吾輩処世如以己之長而蓋人勿以己之善而形人

勿以己之多能而困人云云 陳蔡の厄

○大学明明徳于天下 舎天下則吾亦無明徳処矣 同上

天下無自是之豪傑亦無尤人之学何行有不得

皆己之徳未修威未至也云云 同上

宣和時酒店壁間有詩云是非不到釣漁処家

辱常隨流水人 陳絳儒巖事

○種樹之法莫如橐駝子東坡曰大者不能活小者尤支

不能待惟撑中材而多帯土礎者為佳 同上

○尾南京多郭郎多長八御堂 大伝法 白河院勅建所也

兼暦年中 地創草西方の荘厳をなすもの

右大将殿先考妣大日経の為に毎年[illegible]
享禄四年辛卯十月十二日兵火に為て焼失[illegible]
本尊夾侍等悉く損失せ[illegible]天文
○二年甲午三月の勧進[illegible]
○摂州兵庫勝鬘王山廃厳宝積寺記 并 楠正成
戦死記正徳二年壬申雑住法[illegible]玉然和尚
所命記也 廃厳記 [illegible]初瑞師志[illegible]
[illegible]

○明月延長[illegible]
太祖曰[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]して俗世を捨て高き[illegible]
[illegible]者と積る罪孔事分[illegible]のなかに
生民乃為にとり以上[illegible]者に有まして下手視に[illegible]
皆内相浄の服を拭[illegible]まして勅憲を[illegible]
天鍵を[illegible]
[illegible]の恵を[illegible]
[illegible]と言を[illegible]
[illegible]や

○[illegible]人[illegible]孫[illegible]
[illegible]郷を[illegible]

一世乃中[illegible]
[illegible]
世乃[illegible]
[illegible]
世乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
太伯乃[illegible]
[illegible]

○
[illegible]

[illegible]
一ノ孫宮上洛 叙せらるゝ事は紫袍を賜はる吉例
[illegible]
[illegible]
常真を姓とし後花園院御宇
[illegible]
[illegible]
上洛せられ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

太神宮神祇和合種[illegible]

○後鏡乃景明寺中定[illegible]帝 海陵乃黄[illegible]に居
第軍貪一旦忽凡而錢と[illegible]て手[illegible]
貪富能乃[illegible]年論[illegible]行 汀州の梅氏
羅仕乃後一日天至に[illegible]梅氏天に仰て曰
非常[illegible]必禍と為[illegible]て止ハ梅氏痛[illegible]人と
声に為て些に地富に保て[illegible]神冊二事只貪
知と知足とを[illegible]の丈明[illegible]必禍を為と知

[illegible]人[illegible]
[illegible]丈一旦名位[illegible]
き世人大祭[illegible]
[illegible]必禍に[illegible]
范文正公一書生の為に蔵福乃碑を[illegible]
[illegible]一り雷轟て主碑石と粉砕せ[illegible]と雲空揮
扉乃昨非菴の白鷺乃[illegible]に出[illegible]
[illegible]

宋地嘉祐中楊偕と云ふ人漢州軍判官道に術士に
遇て問て曰君世に比なき黄金を化し出す者あり
と聞き中て就て偕に問ふ術士曰吾有り
術士世術を授て曰吾に借て曰吾
吏術を学ぶ者多し仙金を化する人中術士曰子の
志若し世音に及ぶと云ふを出すべしと矣せ
り家書に云ふ所の伝授の者に一天に聽
て愛深言深せざる者世少なし故に仙と
術士乃而して仙人に貴題に金を
と云ふ世に受世銀を化し使せ人支掘如り石
屋乃人や　己のみ我庫中金只師父子孫八系　半ば分て秘に与へ
○仙の術の新説を知せ世に言て貴と
如て言て数月にして我九石餘文を化く張ま
忘れ元吳郡宗法の言下やとも人吟て
曰孫完八自知海に法乃屋とも

政府文書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

9 或人問 文照院殿の法会毎年の逢宗[illegible]

[illegible]

常宣院殿の命に依て東

叡山より数珠[illegible]

准后乃至門跡[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan